発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033～4
編集兼発行人 杉本一男
半年間 1,800円 送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
0968946－005

うごき

7月27日 期末仮払い配分団交
28日 炭労中央委員会
28日 中央行動出発
31日 キャラバン隊出発
8月1日 早朝ビラ配布
1日 キャラバン歓迎集会
2日 市内ビラ配布
3日 福岡・熊本ビラ配布
4日 炭労110回定期大会
6日
6日 炭労中央行動出発

政策闘争へ全力投入

定期総会で行動方針決まる

七月二十七日午前九時から、労働金庫大牟田支店の二階ホールで一九八六年度の定期総会を開き、緊迫する石炭政策闘争に全力をあげ団結を固めて諸課題を遂行しようと、向こう一年間の行動方針と予算を決定し、大会宣言などを採択しました。

定期総会は、組合歌『炭掘る仲間』の全員合唱ではじまり議長団のあいさつのあと、この一年間に亡くなった仲間三人に黙とうを捧げました。

退職者表彰では四十八人の退職者に表彰状（総評議長、炭労委員長、三池労組組合長の連名）と記念品が贈られ、被表彰者を代表して宮原正満さんがお礼のあいさつを述べられました。

退職者の皆さんが、拍手のなかで退場されたあと、中原組合長があいさつを述べました（別項）。

来賓あいさつに移り、平川三池主婦会会長、大牟田・荒尾両地評を代表して城之内大地評会長、安部社会党大牟田総支部副委員長、緒方三池退職者の会会長が、それぞれ答申を前に重要な段階に来ている石炭政策問題についてふれ、激励と連帯のあいさつを述べられました。

なお、来賓として出席された式島荒地評会長、馬場労働金庫大牟田支店長、志水労働金庫荒尾支店年度の行動方針の提案説明、討議がおこなわれ、質問、補強意見に対する答弁ののち全員の拍手で承認決定されました。

昼食休憩をはさんで午後一時三十分から再開、一九八五年度の決算報告と監査報告が質疑応答のあと承認され、一九八六年度の予算案についても質疑応答のあと承認決定されました。

議事を終わり、スローガン、大会宣言（二面）を採択、『がんばろう』を合唱し、「団結頑張ろう」を三唱して、総会の幕を閉じました。

このあと、委員会が開かれ上期期末手当の仮払い交渉経過、配分要求と配分交渉経過が報告され、承認されました。

「三池の縮小浮上」と報道されるなかで、地元にも大きな波紋が広がっているが、「たたかう以外に道はない」と総会で誓った。

縮小、撤退許さず

中央行動、キャラバン相次ぎ出発

石鉱審の炭価・需給部会での今年度分の炭価と引き取り量をめぐって、決定が遅れていることから当初予定されていた第八次石炭政策の答申大綱の提示がずれこみ、本答申も遅れるのではないかとの見解もありますが、いずれにせよ答申は経構研報告、石鉱審の中間報告からみればきびしい内容になると予測されることから、われわれの要求を実現するために、諸行動に取り組んでいます。

すでに七月二十八日、二十九日には石炭労協による中央行動（各関係先への要請、通産省座り込み、ビラ配布、決起集会など）がおこなわれ、八月一日からは北海道・九州からキャラバン隊が出発、各地で要請し、ビラを配り街頭で訴えます。また七日、八日は炭労独自の中央行動を実施します。

三池では地元で百本の立看板、五百枚のステッカー、さらに福岡、熊本を含む四万枚のビラ配布をして訴えます。

※ 八月四日から開かれる炭労第一一〇回大会での政策闘争に関する一号議案の要旨は二面に。

期末、答申後に本格交渉

仮払い二十六万五千円の低額

上期期末手当については、春闘交渉同様、答申後に本格交渉がおこなわれるのに伴って、仮払いについての協議が衆参同時選挙終了後直ちに開始される予定でしたが会社側は七月二十二日、さらに二十三日に延期してきました。二十三日に提示した額は平均二十二万円で、炭労中執がめざした前期妥結額の期末本体分三十九万九千五百円にほど遠いものでした。

炭労は二十四日中央委員会を開き、支部代表者をまじえた交渉に移り、会社側は二十五日に二十四万円を提示、さらに交渉の結果同日午後七時、二十六万五千円を回答しました。交渉団は、目標を大きく下回る額できわめて不満であるが現状ではやむを得ないとして解決することになりました。

なお、空知は解決額の九〇%、幌内、真谷地は五八・五%でした。

このような事態を招いたのは会社側の責任であり、賃金同様答申後の本格交渉では全力をあげてたたかいを組織しなければなりません。

山元配分交渉

中央での解決をうけて、山元では二十六日、二十七日と配分交渉をおこない、三池労組は全額一律支給を要求しましたが、会社側は従来の枠ははずせないとして、仮払いの性格から若干本人給部分を厚くしていますが、結局会社案強行となりました。

配分内容

本人給 一二七、七六七円（四八・二一%）
家族給 人当たり 四、〇〇〇円（二・四五%）
勤続給 年当たり 一、九〇〇円（九・九〇%）
所得給 乗率 〇・〇六三六三（平均一〇四、五一四円）（三九・四四%）
期央定年退職者
60年7月以降 一八、二〇〇円
61年1月 二八、五〇〇円
〃 2月 三七、五〇〇円
〃 3月 四七、二〇〇円
期後定年退職者
（61年3月31日～61年7月24日） 二六五、〇〇〇円
期末私傷休職者および61年4月1日以降の原職復帰者 一三二、五〇〇円
CO関係 従来通り協定額を支給
支給日 8月8日（金）（13時30分～17時30分）

組合長あいさつ

大要

組合員のみなさん、毎日大変ご苦労さまです。

また、本日の定期総会に、来賓のみなさまには、ご多忙中にもかかわらずご出席をいただきお礼を申し上げます。

さて、先般の衆参同時選挙では中曽根首相の『戦後政治の総決算』の路線に歯止めをかけるために、全力で闘いましたが、結果は誠に残念なことですが、闘いの成果を十分確認するまでにはいたりませんでした。

自民党は三〇四議席という圧倒的な数の力をもって、これまで以上に『戦後政治の総決算』の総仕上げに向けての政治をすすめてくることが予測されます。

具体的には、防衛費の一%枠の撤廃、スパイ防止法の制定、大型間接税の導入、さらに国鉄の分割・民営化の攻撃と、一層反動的な政治をすすめることは明らかです。

また、私たちがいま闘っている第八次の石炭政策でも、中曽根首相の私的諮問機関である『経構研』は、本年四月一千万トン体制をうち出し、石鉱審の検討小委員会も昨年九月から検討され、その中間報告を五月に発表しました。

この報告書を見るかぎりでは、これまで以上にきびしい内容が報告されています。例えば、生産規模では需要に見合った生産がうたわれ、しかも経済合理性をタテに、国内炭の切り捨てが強調されています。資源小国であるわが国の中・長期の展望に立った、エネルギー政策をどのように確立するかという観点が全く欠落をしています。

また、この中間報告は幾つかのヤマの閉山を示唆しています。

いま、石鉱審の炭価・需給部会が開かれ、六十一年度の炭価問題が検討されていますが、議論が対立し、まとまっていません。先般の炭価・需給部会では、最終的に八月中に結論を出すことで終わり、この結論の結果では第八次石炭政策の方向性を決めることにもなります。

このような情勢のなかで、炭鉱労働者の労働条件も極めて劣悪な労働条件下におかれています。今年の春闘も、いまもって解決をみていませんし、夏の一時金も仮払いで、しかもわずか二十六万五千円の低額で当面の解決をみています。私たちの基本的な要求である、他産業並みの労働条件からすると、ますますすほど遠い実態にあります。

このようなきびしい情勢をふまえ、炭労は本年三月の大会で、第八次石炭政策闘争を組織の命運をかけて闘うことを確認してきています。私たちの闘いも、これまで以上にきびしい闘いが予想されますが、閉山に反対し、産炭地を守るために全力をあげて頑張る決意です。

本日の定期総会が、これからの運動の展望を切り開くための意思統一の場になることをご要望申し上げ、決意を含めたごあいさつといたします。

地底

▼…「広場へ広場へ八月の歩み確めあふ」汐見陽、「反核へ燃え咲くカンナ爆心地」古賀千恵子、「夏かぜのきれいな空の核兵器」志摩一平、「また誰か核をふやしている八月」中村重義（西日本反核平和詩歌句集から）

▼…「全面核戦争がいつかはやってくる不可避なものとして、人類が生き残る方法はあるか」と、千人が種の保存のために八千億円余をかけて南海の孤島に大ドームを作る。―夏樹静子『ドーム―終末への序曲』であるが、ヒロシマ・ナガサキの上に、なぜ人類絶滅の「過ち」が犯されるのか。絶滅から守る「教訓」は何か。

▼…なかったはずの同時選。ありえぬはずの総裁三選。やらないはずの大型間接税。「うそ」という歌が流行ったことがあったが、たわいない男女のウソとは嘘が違う。選挙が終わって上がる円。深まる不況。失業、倒産。首相は功成り「万骨枯る」か。権力者の最高の娯楽は人事いじり。ニューもオールドも右往左往の態たらく。

▼…安い海外炭は暴落した原油が背景にある。高いときは一バーレル三十ドルもしていたのが六ドル台にまで下がっている。石油の歴史は〝暴騰と暴落〟のくり返しだが、いずれ高値になる。国際的なエネルギー事情の緩和も長・中期的には一時的なもので、国内炭が経済性で劣勢であるとしても「必要資源」であることは確かだ。

▼…安全とは「安らかで危険のないこと」であり、安全保障とは「外部からの侵略に対して国家の安全を保障すること」とある。こと軍事力に関しては「日米安保」にリキを入れるが、エネルギー、食糧には無防備なのが現実。政府の責任こそ重大。石炭会社の「つぶすも残すも政策（金）」次第というヘッピリ腰をもたたけ。